

Ⅱ. 自主改善努力評価に関する事項

1. 自動車事故被害者団体との意見交換

(1) 活動状況

本年度より、本部だけではなく、各主管支所や支所においても各地域の自動車事故の被害者団体との意見交換をより積極的に行うこととし、各地域の被害者団体主催の会議、総会、セミナー等に29件出席するとともに、犯罪被害者支援連絡協議会等の関係団体の主催する会議等に32件出席した。

(2) 効 果

自動車事故被害者団体等との意見交換により、被害者の状況や意見等を把握するとともに、被害者団体を通じてNASVAの被害者援護事業の周知を図ることができた。

(3) 今後の課題

都道府県単位の被害者団体は大都市以外の地域では規模が小さく、その所在の確認や意見交換が困難な場合がある。それらの団体については、地元自治体等福祉部局を通じて情報入手するとともに、複数の団体と合同で意見交換を行う等、効率的できめ細やかな対応を図っていく。

主な被害者団体との意見交換実績		
5月10日	福岡県	福岡・高次脳機能障がい者とともに歩む翼の会 20年度総会 ・発足後第1回目の総会。受給者のご家族も会員になっている。産業医科大学リハビリテーション医学講座教授も出席。
7月24日	徳島県	高次脳機能障害徳島家族会 定例会 ・受給者や友の会会員のご家族もメンバーとなっており支所から出席のアプローチを行った。徳島大学医学部のドクターも出席。
9月18日	北海道	さっぽろ福祉ネットあいなび 意見交換会 ・障害者の移動支援事業等を行っているNPO法人に自動車事故被害者支援事業を説明。
10月25日	香川県	かがわりハビリフェスタ&健康福祉フェア2008講演会 ・リハビリフェスタでナスバのPRとして会場内でのミニセミナーを開催。
2月15日	大阪府	交通事故後遺障害者家族の会大阪臨時勉強会 ・会議で介護料の説明を行うと共に、分科会では受給者ご家族も含めた参加者の方と意見交換を行い要望等をいただいた。
3月24日	富山県	脳外傷友の会高志 意見交換会 ・代表者の方が受給者のご家族であり、介護料にかかるやりとりの中で、友の会の話が出ていたので、支所より連絡をして意見交換会を実施。

【意見交換における意見、感想】

(NASVAへの意見・感想)

- ・ NASVAの存在を知らなかったので勉強になった。
- ・ NASVAのことを知らない他の方にも情報提供したい。
- ・ 交通事故の時に力になってくれる所があるのを知って心強くなった。
- ・ 交通事故の後遺症で苦しんでいる人はたくさんいるので、業務内容の周知と被害者支援をお願いします。 等

(介護についての意見・感想)

- ・ 身体拘縮治療のリハビリを行ってくれない、流動食の嚥下訓練を行わず、すぐ「胃ろう」処置を行う等、病院、施設に対する不満。
- ・ ショートステイを受け入れてくれない。
- ・ 自宅介護が理想である。
- ・ 親亡き後の後見人制度や施設についての悩み。 等

【自動車事故被害者団体等との意見交換会の様子】



【かがわりハビリフェスタ&
健康福祉フェア 2008 講演会】



【高次脳機能障害徳島家族会 定例会】

2. 療護センター担当者会議の活動内容

(1) 活動状況

療護センターの効率的な運営及び療護センターの医療・看護技術等の開発・向上を図るため、各療護センターのセンター長、看護師長及び医療関係スタッフ並びに機構担当職員をメンバーとする会議をセンター長、看護師長、リハビリ担当責任者、メディカル・ソーシャルワーカー別に年2回（リハビリ会議は1回）ずつ開催し、現状及び課題の精査を行い、今後の対応策など業務検討を行った。

(2) 効果

療護センター等の現状及び課題の整理を行い、医師、看護師、リハビリ担当者、メディカル・ソーシャルワーカー別にそれぞれ対応策など業務検討を行うとともに、情報の共有を図り、入院患者等への質の高い治療・看護等の充実を図った。

- ① 業務運営の効率化（医療機器の有効利用と維持管理）
- ② 治療・看護・リハビリ技術等の開発・向上
- ③ 治療・看護・リハビリ技術の社会還元（学会、他の医療施設、在宅患者の介護者等）
- ④ 治療効果の測定方法、効果分析等
- ⑤ 患者の退院後のフォロー
- ⑥ 患者の入院期間の短縮
- ⑦ 療護センター機能の病床委託病院への協力・支援
- ⑧ 患者家族等への支援の充実強化
- ⑨ 短期入院協力病院としての対応及び他の協力病院への支援について 等

(3) 今後の課題

同担当者会議の検討結果を踏まえ、療護センターの入院患者及び在宅介護の遷延性意識障害者に対し、より質の高い治療・看護等を提供していくことが必要である。

また、定例会議だけでなく、H21年3月に開設した Web サイト「療護施設スタッフ責任者のための広場」を有効に活用し、部門ごとの情報の共有、ざっくばらんな意見交換の実施等による療護施設間の連携をさらに深めていくことが必要である。

Web サイト「療護施設スタッフ責任者のための広場」（イメージ）

NASVA

ようこそ、ナスバ療養所へ

[新規スレッド](#)
[ホームに戻る](#)
[編集者通](#)
[ワード検索](#)
[過去ログ](#)
[リンク](#)
[管理用](#)

スレッド一覧

トピックス	作成者	返信	参照	最終更新
 【共通】	管理者	1	1	2009/03/11 15:32 by 管理者
 利用上の注意事項	管理者	0	1	2009/02/24 10:42 by 管理者
 【MSW】	管理者	0	1	2009/02/24 10:21 by 管理者
 【リハビリ部】	管理者	0	1	2009/02/24 10:20 by 管理者
 【看護部】	管理者	0	1	2009/02/24 10:19 by 管理者

 標準スレッド

 添付あり

 ロック中(書き込み不可)

 アラーム(返信数90件以上)

 管理者メッセージ

3. 療護センターの広報（パンフレット、DVD）

（１）活動状況

平成20年度においては、療護センターPR用の三つ折りパンフレットを新たに作成し、各種イベント等での配布や福祉関係機関等の窓口等への常置等を行い、広く療護センターについて周知を図った。

また、療護センターで日々実施されている治療・看護・リハビリ内容に焦点を当てた、医療関係者向けのDVDを新たに制作し、国土交通省が指定する短期入院協力病院へ配布するなど、療護センターで培われた質の高い治療・看護技術の伝播に努めた。

（２）効果

①療護センターパンフレット

療護センターPR用の三つ折りパンフレットを新たに作成し、各種イベントでの配布、福祉関係機関等への常置等を行うことにより、療護センターの概要、役割等について周知が図られた。

②療護センターDVD

新たに制作したDVDについては、療護センターで日々実施されている治療、看護、リハビリの具体的内容について紹介するとともに、メディカル・ソーシャルワーカーによる患者のご家族への対応等にも触れた詳細な内容となっていることから、主に、国土交通省が指定する短期入院協力病院へ配布し、職員に対して研修等で活用することにより、長年療護センターにおいて培われた質の高い治療・看護技術、ノウハウの伝播が図られる。

（３）今後の課題

平成22年3月には、平成19年4月以降に入院された患者様の入院期間が1サイクル（3年）を迎え、今後、入院患者の回転率が上がっていくことが予想されるため、今後も安定した入院患者数の確保が図られるよう、療護センター等の役割、その活動内容についての広報を強化していく必要がある。

【療護センター三つ折りパンフレット】



【療護センターDVD『私たちはあきらめない』】



4. 積極的な広報の実施

(ホームページの活用)

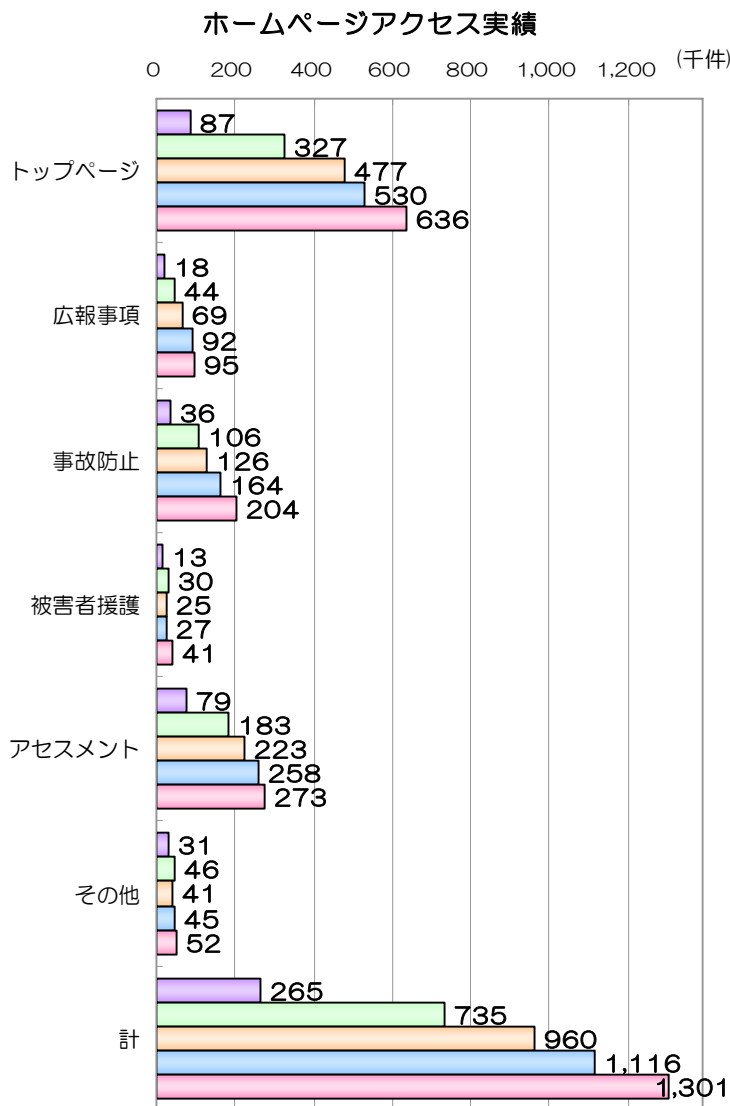
(1) 活動状況

機構一体として広報活動を積極的に展開するため、ホームページについてはアクセスしやすいサイトを目指してページデザインの改良などを図るとともに、随時データの更新を行った。また、NASVAメールマガジンを発行し、交通安全情報や被害者援護制度などの情報を提供した。

(2) 効果

① ホームページ

ユーザーの視点に立った見やすいホームページを目指し改良するとともに、コンテンツの追加やメンテナンスを随時行なった結果、約130万を超えるアクセスを記録し、前年度比17ポイントを上回った。また、3月にはWebサイトユーザビリティ(使いやすさ)調査(日経PBコンサルティング)に基づき、トップページのリニューアル等を行い、更なる改善を図った。



■ 平成16年度 ■ 平成17年度 ■ 平成18年度 ■ 平成19年度 ■ 平成20年度

【新しいトップページ】



②メールマガジンの発行

NASVAメールマガジンの発行を8回の発行を行い、交通安全情報や被害者援護制度などに関するタイムリーな情報の提供を行った。



ご利用ありがとうございます！

NASVAメールマガジン 12号

NASVAメールマガジン編集部
<http://www.nasva.go.jp>

NASVA

[NASVAは安全・安心のパートナー]

-----今号の内容-----

- 新適性診断システム「ナスバネット」いよいよ支所へ導入
- 新適性診断システム「ナスバネット」拡大中
- ナスバネットユーザーをサポートするヘルプデスクを設置
- 「2008・自動車の事故防止推進キャンペーン」を実施します

※等幅フォントでご覧下さい。

Ⅰ 新適性診断システム「ナスバネット」いよいよ支所へ導入

NASVAは、自動車運送事業者の皆様に対する事故防止サービスの向上を図るため、24時間365日利用可能な運転適性診断サービス（通称：ナスバネット）を6月30日から事業者向けに開始したところですが、このサービスを10月1日より支所にも順次導入を開始しました。ナスバネットの導入により、さらなる安全運転に役立つようきめ細かなアドバイスを実現できるとともに、添乗指導と同様の運転教育効果が得られるように新しく開発した、コンピュータグラフィックスを用いた模擬運転による診断も利用できます。導入済み及び導入予定の支所は次のとおりです。

10月	1日（水）	岐阜支所
	2日（木）	秋田支所
	4日（土）	佐賀支所
	7日（火）	青森支所、福井支所、和歌山支所
	14日（火）	富山支所

☆ ナスバからのお知らせ

（育成資金貸付）
自動車事故により死亡または重度の後遺障害が残った方のお子様の健全な育成を図るため、中学校卒業までのお子様を対象に、育成資金の無利子貸付を行っていますのでご相談下さい。

詳細は<http://www.nasva.go.jp/sasaeru/koutu.html>で。

（介護料の支給）
自動車事故が原因で、脳、脊髄又は胸腹部臓器を損傷し、重度の後遺障害を持つため、移動、食事及び排泄など日常生活動作について常時又は随時の介護が必要な状態の方に支給しています。

詳細は<http://www.nasva.go.jp/sasaeru/taisyou.html>で。

（療護施設の設置・運営）
自動車事故による脳損傷によって重度の後遺障害が残り、治療と常時の介護を必要とする方のうち、植物状態としての一定の要件に該当する方に入院していただき、社会復帰の可能性を追求しながら適切な治療と看護を行う重度後遺障害者（遷延性意識障害者）専門の療護センター（病院）を国内4か所に設置し、運営しています。入院の申込み、ご相談については随時受け付けております。

詳細は <http://www.nasva.go.jp/sasaeru/rvougou.html>で。

□ 入院申込を受付中

上記療護施設のほか、NASVAでは、自動車事故による遷延性意識障害者を専門に治療・看護を行う療護施設機能の一部を医療法人 医仁会 中村記念病院（北海道）、特定医療法人 雪ノ聖母会 聖マリア病院（九州）に委託しています。入院患者の受け入れについては、医療法人 医仁会 中村記念病院は12月11日、特定医療法人 雪ノ聖母会 聖マリア病院は12月13日から開始しており、入院の申込み、ご相談については随時受け付けておりますので、下記委託先病院の窓口へ直接お問い合わせ下さい。

- 医療法人 医仁会 中村記念病院
Tel：011-231-8555 医事課（内線：451、460）
〒060-8570 北海道札幌市中央区南一条西14丁目
- 特定医療法人 雪ノ聖母会 聖マリア病院

（3）今後の課題

今後、さらなる広報活動の展開を図るため、広報プロジェクトチームの活用を含め、さらに機構の認知度の一層の向上を図り、業務全般の理解を得ることに努める。

5. 内部統制に関する取り組み

(1) 活動状況

20年度においては、NASVAの保有する個人情報の保護、業務に関わる法令等遵守および職員倫理の確立等のコンプライアンス推進の取り組みについて検討した。

(2) 効 果

平成15年度の機構設立当初から、全役職員の服務に係る倫理の保持及び職務に公正な執行を目的とする役職員倫理規定を整備し、その徹底を図ることにより当機構業務に対する国民の信頼の確保に努めている。

また、監事による本部、主管支所及び支所への現地監査を行うとともに、監事について、理事会その他重要な会議への出席、重要な決裁書類の閲覧をすることにより、財務・業務に関する内部統制を図っているところである。

(3) 今後の課題

日頃より職員一人ひとりに、コンプライアンスの意識を持続させることが必要であることから、マニュアルを作成するなどし、コンプライアンスに対する職員の意識の向上を図る。

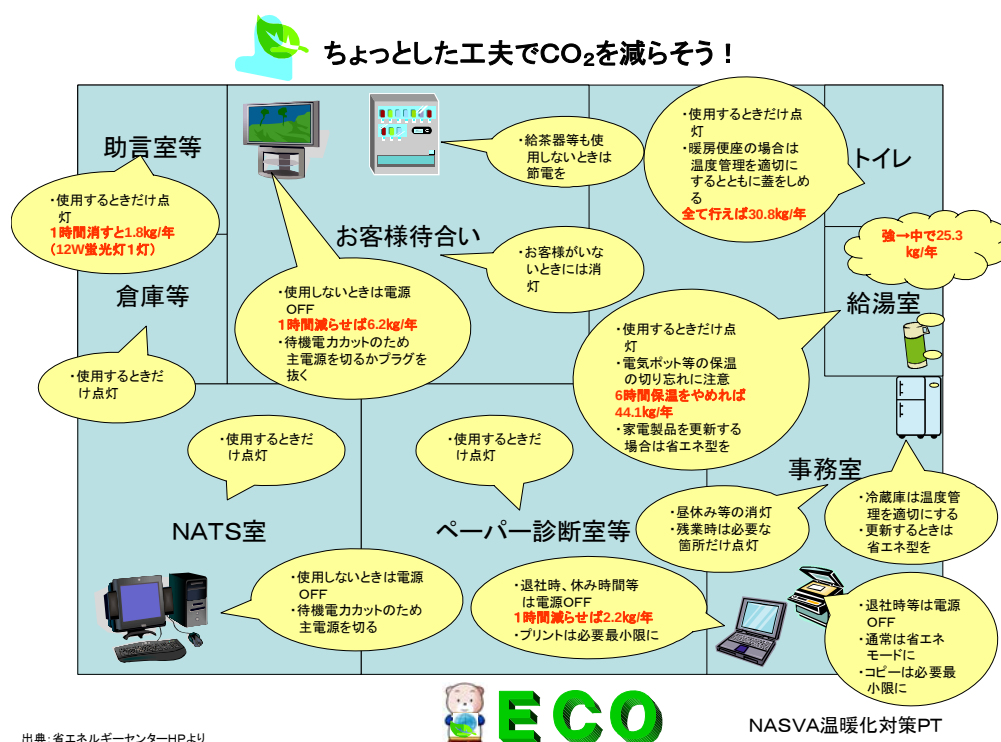
6. 環境負荷の低減への取り組み

(1) 活動状況

平成20年度に「地球温暖化対策実行計画」を策定し、用紙類の使用量の削減、電気、ガソリン等のエネルギー使用量の抑制等による温室効果ガスの排出の抑制に取り組んでいる。

(2) 効果

資料等の両面コピーの徹底や用紙の再利用を図ることで用紙類の使用量の削減に取り組むとともに、執務に影響の無い蛍光灯の取り外し、トイレ、執務室等の使用時以外の消灯などを呼びかけなど行い、職員の環境に対する意識の高揚を図った。



出典:省エネルギーセンターHPより

CO₂削減のポイント

□ 空調	室内の温度設定を省エネモードにする(夏:28℃ 冬20℃)、中間期・冬期は、窓を開けて外気冷房をする
□ 給湯	冬期以外は給湯を停止する
□ 照明・電気	不使用室は消灯する、昼休みは消灯する、残業時は作業場所のみ点灯、自販機を夜間停止する、白熱灯を蛍光灯タイプに更新する
□ 冷蔵庫	無駄な開閉をしない、開ける時間を短く、設定温度は適切に
□ 電気ポット	使わないときはプラグを抜く(再沸騰させた方が良い場合も)、温度設定は低めに、可能であれば省エネタイプに
□ テレビ	見ないときは消す、消すときは主電源を落とすかプラグを抜く、画面の清掃をこまめに、画面の明るさを下げる、音量はほどほどに
□ パソコン	使わないときは電源OFF、電源オプションの設定を見直す(システムスタンバイにすることで002年間-0.8kg)、プリンター等周辺機器も忘れずに
□ 暖房便座	使わないときはフタをしめる、便座暖房の温度は低めに、洗浄水の温度は低めに、夏季は暖房OFF
□ コピー機等	夜間や休日など長時間使用しないときは電源OFF、通常でも待機モードにする、コピーは必要最小限、両面コピーの励行
□ 自動車	エコ運転に努める
□ その他	建物東面のブラインドを管理し、朝の冷房負荷を軽減する



NASVA温暖化対策PT